

国内各界(経営者-労組-農協漁協-行政-教育医療福祉等)指導者とその参加組員殿、
最悪事態想定作業を!!! 2014/6/16

客観事実は誰が言い出しでも事実は事実、以下は真に現状体制には不都合極致!!!。
このまま放置でも緊急対策に転じて間もなく気候凶暴化が誰にも見える時代に、
<対策に転じる事は一時的困窮時期あれど、最終的な救済につながります>

最悪は**最悪事態想定作業を怠る事!!!**、この一点に付き報告申し上げます。このままの
世界体制だと、如何なる文物も超える**前代未聞の地獄絶滅世界**に間もなく入ります。

*だが地球救済工学は可能だ、ここが狙いです。

(1)北極は小池で、歴史的流入の大量有機物がメタンクラスレトとして沿岸域大量埋蔵
気候温暖化前は低温冷凍にて安定、だが近年温暖化は最低温極地北極に最大級に波及、
現状は{北極反射氷層減少→太陽熱海面入射増大→更なる氷層減少}の**熱正帰還化開始!!!**、
<http://www.ameg.me/>

<http://arctic-news.blogspot.jp/p/how-to-cool-arctic.html>

之は人為の**北極冷却工学施工**以外に阻止手段がない!!!。海底温度上昇とメタン融解は**気候熱化を急進**、最終的には地上破滅直結が過去歴史ならびに現状観測-理論から判ってる。

(2)上記施工可能条件は大気CO2最大級吸引にて全球温度停止を図るが必須(0.3°C/30年)、
地球温暖化で最も温度上昇が激しい地域が北極、冷却工学施工可能性の保証が必須。
当然温度上昇を極小に押さえるは全球被害を最小に抑える事にも通じる。

http://www.777true.net/This-is-the-most-emergent-problem-of-to-live_or-not-to-live.pdf

80%以上炭素削減=20%以下炭素エネ政策の緊急実施,食べて寝れば最善。

<http://www.777true.net/Life-Assurance-by-National-Strategy-in-coming-climate-WAR-TIME.pdf>

☞: 政策決定は確率値でなく、**期待値=確率 x 被害想定額**の最小化を選択。

何でこの様な事態になる魔で放置されてきたのかの最大謎は以下。気候変動問題に関しては本来国連機関 **IPCC** 責任管轄ですが之が飛んだ食わせ者(**EXXON-MOBIL-Rockefeller**)。

<http://www.777true.net/IPCC-the-injustice.pdf>

他原因は**政府財界圧力下の多勢気候科学者**が予測に今ひとつ自信を欠いた*)、しかも経済-心理学哲学の他分野科学者との相談なしに地上生命是非を**密室独断**)** したらしい。

だから現状気候科学者はとてつもない負い目を背負ってる、この屈折心理を良く理解!!!

専門分野では第一任者はまちがいないのだが、既成概念を超えた**超政策**決定では素人です。

一つ責められない要素がある。だがその自覚がないと素直な議論ができにくいだろう。

近年科学は世界的に**詳細専門家**が進行、**統合一般家**が皆無はこの時代に致命的です。

然るに鈴木 of 粗い推計ではまだ手遅れでなく、救済余地がある。

*この**確認作業**がある。従来からも各地行政等にもこの確認作業を指摘してきました・

無論この問題は日本国内で決定不可能、**実質的には米国を動かさないと救済開始はない**。
過去数年の米国は大規模旱魃と異常気象多発で誰もが気候崩壊開始を認知、だが他方で
石油文明大繁栄成功の**根強い保守主義強行支配が破滅推進！！**、
この頑固頭に一撃を加える何かがないと米革命は不可能==世界破滅へ直結！！、
筆者はこの**頑固大転換**を米国にセールスに行きたいと思ってます。

👉：一概に西欧人を言えど当然ながら様々な主義信条にある訳だが、ここで問題になるのは自然素朴に生存を願望する一般人でなく、**死んでも高貴地位に拘泥する勢力の存在**、
実は世界を支配する**寡頭勢力**とその手下=右翼筋は現状の資本主義支配体制に頑固固執。
戦後の世界的経済成長とはできる限り大衆を贅沢になじませ、**大衆を半貴族化する事**。

そうなれば現状体制保守側に着く。**いわゆる大衆の大規模買収=戦後世界経済成長！！**。
かくなれば誰も貧しい共産体制などを望まないと言う仕組みだ。無論ながら炭素の大規模
削減を必要とする気候変動本格政策にも彼らは麻薬づけが効いて抵抗するようになる。
かつての共産ソ連と中国の今は共に実態的には資本主義をやってる。そして今は西欧化が大幅
に進捗、国民感情は西欧化かしてる。現状指導者も両者共通して、西欧指導者同様に
気候変動には後ろ向きであることだ。**これらは今、世界的な規模での大集団同調麻痺**
として気候変動危機に鈍感という仕組みにある。水は実は過冷却という奇妙な状況があり、
0度を下回っても凍らない状態がある。だがそれは一撃一瞬で氷に変化する。もし世界が
気候変動真相を認知したならば、更に対応策もある事も認識できたならば、過冷却から
氷に一変するだろう。

* IPCC 気候科学弱点：なぜ IPCC で助からないか！！

(a) 流体方程式が判っていない！！

気象予測基礎は流体方程式、近年改良進行で非常に精度が良い。だが長時間予測は苦手、更に気候乱動時代＝大気大かき混ぜに入ってその弱点も顕に、彼らには真因不明らしい。気候問題では長期予測が決定的、だがモデルの違いで一意性が乏しい、素人はスパコンに騙されてる、あれはただの重機と同じ、操作しただけでは鉄屑、非常に不幸な事にスパコンシミュレーションをやると自信喪失になるだろう??。

* 煙をかき混ぜると運動軌跡が消滅, 予測不可能に、専門語でカオス現象。

http://www.777true.net/Information-Loss-Process-in-NS-Equation_The-Cause-of-Chaos.pdf

流体運動は力学エネが熱エネに転換して進行、之は情報量喪失に等しい。

** 逆に次元モデルは散逸要素皆無完全決定論系になる。1850～2010 の温度再現に成功！。

<http://www.777true.net/Accounting-principle-verify-reconstruction-the-Past-Climature-Records.pdf>

* 気候科学厄介さはその観測量のカオス的乱動成分が非常に大きい、何年もの時間経過での時間区間平均値を取らないと確定的動向がつかめない。素人は一時に右往左往する。結果データは一枚のグラフに収まるが、それを作るには何年の現場観測と高代価がある。

* 気候科学者大部分は詳細専門分野の現場観測者だと思う。彼らは理論計算はしないだろう。モデル計算屋だが、詳細では上記の複雑系乱動で困難要素がある。彼らを責めれない彼らは物理学基礎論とは無縁に見える。それは(a)で判った。物理屋も判ってなかった。

(b) IPCC は不正会計<放射強制力定義と会計欠落要素>?!、

常識では”まままさか”だが、之は筆者にとっても基礎検証欠落で大痛恨！！！！

全球年間熱借金=熱入力-熱出力=(実効)放射強制力=之が地球温度上昇速度を決定問題の熱借金=放射強制力は寄与要素の総計、具体例を言えば以下がある。

太陽熱反射は負(温度低下に寄与)、二酸化炭素増は赤外線放出阻止で温度上昇寄与、産業革命当時(1850)当時は無借金だった、そこで成分要素の産業革命後変化分が

$$\text{放射強制力}(2014) = \text{熱入力}(2014) - \text{熱出力}(2014) > 0$$

$$\text{一) 放射強制力}(1850) = \text{熱入力}(1850) - \text{熱出力}(1850) = 0$$

$$\text{放射強制力}(2014) = \langle \text{熱入力}(2014) - \text{熱入力}(1850) \rangle - \langle \text{熱出力}(2014) - \text{熱出力}(1850) \rangle$$

右辺は産業革命以後の名変動分の総計になってる。実際には<>の中身は複数要素が、然るに筆者が再検算で判った事は温度上昇それ自身が負に寄与する項が欠落!!、実は筆者はこの項を入れる事で1850～2010の温度再現に成功(2004/5)。

* 之は意図的な畏、素人大衆は騙されないように！！！！。

温度上昇は温度上昇速度を弱めるのは事実だが、温度が上がってしまえば災害増大、当然計算は温度上昇低め傾向になるが、実は0.1℃上昇の怖さが素人には判りにくい

<http://www.777true.net/0.1C-Temperature-Rise-could-cause-Climate-Wild.pdf>

(c) **IPCC は北極メタン破滅を隠蔽しつづけている！！！！**。 **之が致命的！！！！**

2000 年に加藤修一議員が国会質問でメタン問題に言及、然るに IPCC 予測モデルに組み込むべしヲ提言するが、2014 年現在その形跡がない、無論彼らは承知なので抽象的な表現で比喩はしている・米国気候科学者組合のロゴマークはそれを一括表現。

<http://www.realclimate.org/>



氷層溶出しで太陽熱が海洋面に直入、それは一層の氷層消滅へ(アルベドフィドバック)、海底に熱到達が起こると大量埋蔵メタンが湧出で地球熱化、最終的に地球火炎化地獄へ、

(d) **更にもう一度上昇では助からない**〈2010?コペンハゲン合意〉。 **之も致命的！！！！**

<http://www.777true.net/1C-TEMPERATURE-RISE.pdf>

1988 米上院で温暖化歴史的証言をした科学者でも活動家でも一級の J. Hansen 博士はこの決定を disastrous (災害的) と非難してる。

温度上昇を可能最小にせねば北極メタン融解の引き金に。地球温暖化で最も温度上昇が激しいのが海洋に浮かぶ**地上最低温度の北極**で全球の熱が冷却を求めて集まる構造。

北極冷却工学の各種可能な手法については近日総合報告を上程予定<最終ページ参照>。

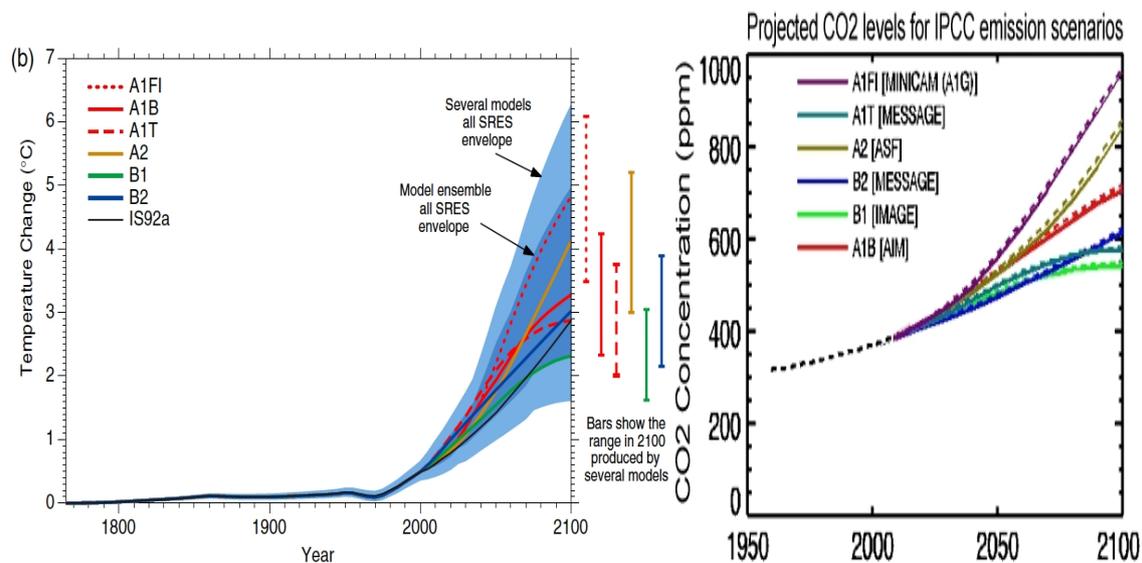
(e)IPCC シミュレーションには温度現状回復シナリオが一切ない。之も致命的！！。

IPCC では温度が上がったきりで下降がない、之では地球は災害だらけ絶滅。

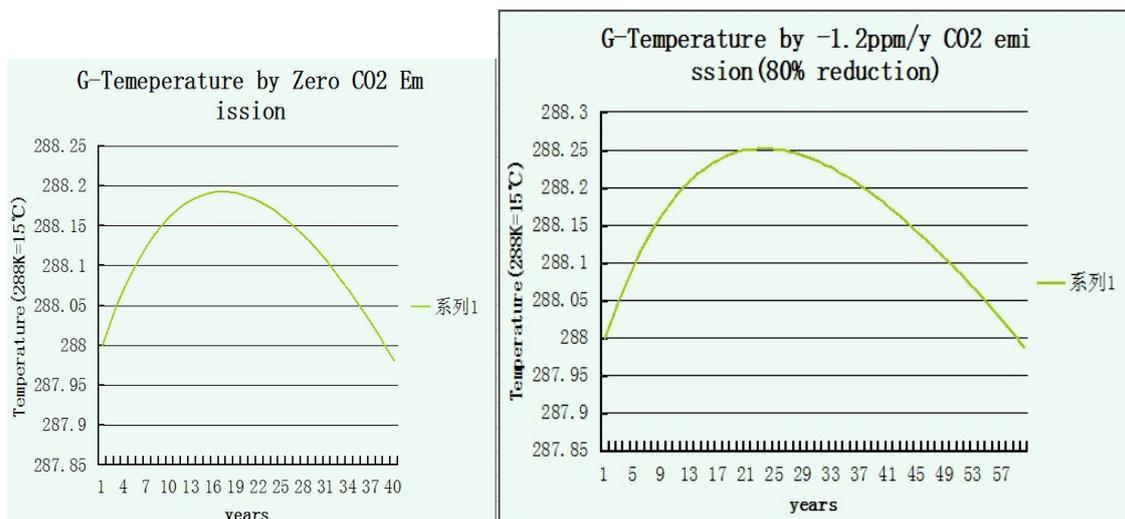
IPCC Temperature Prediction with emission scenarios

<http://www.skepticalscience.com/ipcc-overestimate-global-warming.htm>

<http://www.skepticalscience.com/iea-co2-emissions-update-2010.html>



(f)777true.net では温度下降シナリオを提示、之でも北極冷却作戦がなければ無意味。



<http://www.777true.net/Definition-on-Radiative-Forcing.pdf>

この simulation 信頼性は 1850~2010 の過去温度再現でほぼ証明。

<http://www.777true.net/Accounting-principle-verify-reconstruction-the-Past-Climature-Records.pdf>

ただし条件として炭素排出シナリオ通りに事態経過が進行、之は北極メタン次第。

北極冷却作戦がなければ無意味。

結論：IPCC では助からない！！

IPCC は石油屋 Rockefeller 隠然悪魔支配の過去現在がある、これでは助かるはずがないだろう。彼らは米国右翼＝米軍産複合体 CIA の実質支配者、その狙いは最終決戦作戦、近年の中東動乱と今のウクライナ、これら背後には彼らの操縦が働いてる事が判ってる。陽動作戦で、もし平和だとおそらく、**気候変動こそが第一級世界問題になるだろう**。世界の右翼ネットワークが気候変動問題を煙に巻いてる。科学者は彼らの無意識の協力者であるのかわからないのかを己に問わねばならない。筆者等がこの勝負に敗残すれば筆者も敵役協力者になり、その報酬は地獄です<今既に地獄です>。この勝負は負けて駄目元の論理しかないはず。負けを承知すれば何でもできる。この論理を理解しないことに奇異を感じます。

順天意者、義政也。反天意者、力政也(墨子、卷之七)。

天意<兼愛、不侵>に従う者は義で政をなす、天意に背く者は力で強いる。

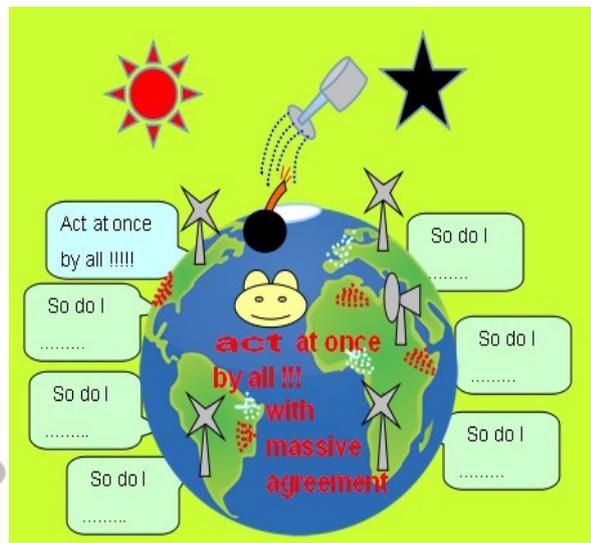
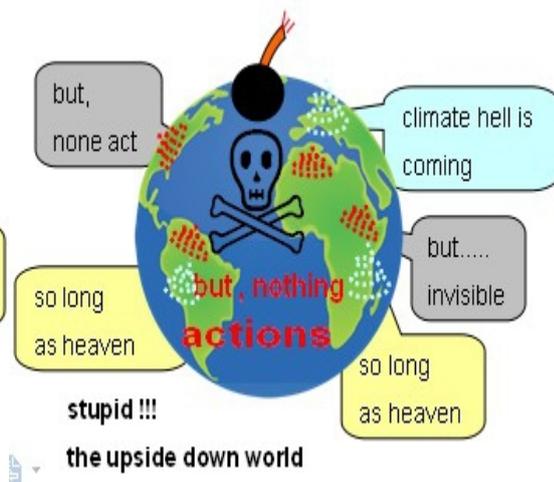
*古代文明は超能力文明です。全知全能に通じる超能力ですよ！！！！

** 密室独断??!!

他原因は**政府財界圧力下の多勢気候科学者**が予測に今一つ押しと自信を欠いた*)、しかも経済-心理学哲学の他分野科学者との相談なしに地上生命是非を**密室独断**** したらしい。だから現状気候科学者はとてつもない負い目を背負ってる、この屈折心理を良く理解!! 専門分野では第一任者はまちがいないのだが、既成概念を超えた**超政策**決定では素人です。近年科学は世界的に**詳細専門家**が進行、**統合一般家**が皆無はこの時代に致命的です。

大集団同調麻痺??!!と後悔なき哲学：

要するに救済手立てに奔走尽力した形跡が見えない事が問題だ。ある程度の広報をした事実は判るが、**目的結果が出るまでのフィードバック制御**がない。技術を尽くしていない!!。



ps: Certainly the problem is outrageously too big, though coming hell is more outrageously too big ! !, A people could do best once they accepted fact. 之に賭けるしかないでしょう

付録：地球命運を決する北極冷却工学：〈夏季Ⅰ 冬季Ⅱの兼用化が最善！！〉

太陽熱反射に働く氷層減少阻止が最優先問題。現状は氷層減少→海洋面熱入射増大蓄積→氷層減少の地獄化正帰還開始。地球工学最大案難点はその破格的規模、だが不可能でない。

Ⅰ：雲地球工学。白夜夏季に雲を人工増大して太陽熱反射促進、海水を汲み上げ上空に噴霧して塩分雲核と水分双方の増大を図る。規模はⅡより小さいが難点は雲の不安定性か？、一基地単位で10kmx10kmをカバできると比較的low額?でできる。以下論文は北極工学向けではないが、内容は詳しい模様だ

<http://rsta.royalsocietypublishing.org/content/366/1882/3989.full>

http://en.wikipedia.org/wiki/Cloud_reflectivity_modification

英国 Stephen Slater が主導者、動力源は風力波面力の自然源、エネルギー消費が最小の方法

Call for Arctic geoengineering as soon as possible, 12 December 2011

http://www.newscientist.com/article/dn21275-call-for-arctic-geoengineering-as-soon-as-possible.html#.U5amc3J_sqM

We must cool the Arctic before it's too late 29th April 2014

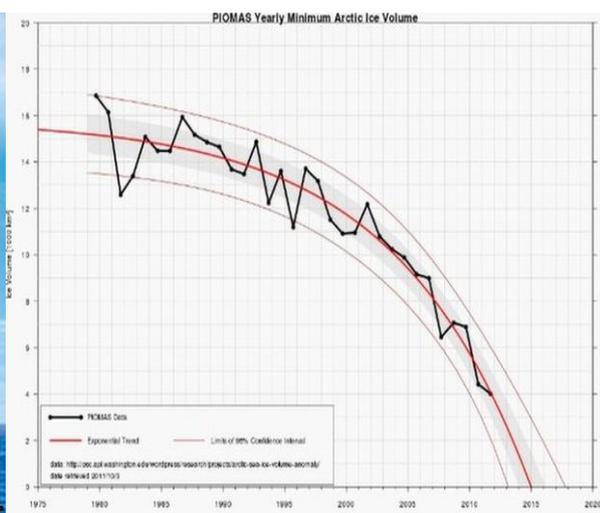
http://www.theecologist.org/blogs_and_comments/commentators/2370255/we_must_cool_the_arctic_before_its_too_late.html

Geoengineering May Be Our Best Chance to Save Sea Ice

<http://www.scientificamerican.com/article/geoengineering-last-chance-save-sea-ice/>

Climate 'tech fixes' urged for Arctic methane

<http://www.bbc.co.uk/news/science-environment-17400804>



*雲は確かに太陽光反射に働くが、逆に地上放射冷却熱阻止にも働くので一般論では地球熱収支上では「相殺する」と従来言われてきたが確実な所の議論が筆者には見つからない。だが地上冷却放射よりも太陽熱入射が圧倒的大問題になる北極では有効です！！！！。

*雲問題詳細は現状筆者には判らない。気候科学上の最難関??

Stephen Slater (英国) の海水散布法 <上記左写真> は実現可能性が高い <趣旨要約>。

Climate 'tech fixes' urged for Arctic methane

<http://www.bbc.co.uk/news/science-environment-17400804>

He has not so far embarked on a full costing of the land-based towers, but suggests **£200,000 as a ballpark figure**. Depending on the size and location, Prof Salter said that in the order of **100 towers** would be needed to counteract Arctic warming.

雲を作る条件は**凝結核**を大気中に大量散布、然るに**海水塩**が有効、飽和蒸気圧下でも相対湿度 10% もあれば雲を作るだけの水分としては原理的に十分、**以下は非常に粗い計算**。

(1) 海水 1000Kg 中に 35Kg の塩分がある、

(2) 他方、雨中の塩分核濃度は之の **1/10 程度以下** だろう <誰も塩辛い雨を知らない>

(3) 従って海水 1000Kg を大気中にスプレー散布すれば 10 倍水分量の雲が作れる。

(2) **飽和蒸気量 (without CCN = 凝結核エアロゾル)**:

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A3%BD%E5%92%8C%E6%B0%B4%E8%92%B8%E6%B0%97%E9%87%8F>

-30	-20	-10	0°C	5	10	15	20	30
0.45	1.07	2.4	4.9g/m³	6.8	9.4	12.8	17.3	30.4

(3) **雲の水分量 (LWC)** :

This is the measure of of water mass in a cloud in a unit volume of dry air.

http://en.wikipedia.org/wiki/Liquid_water_content

Cloud Type	LWC (g/m ³)
cirrus	.03
fog	.05
stratus	.25-.30
cumulus	.25-.30
stratocumulus	.45

Note, even in non-saturation, water output for cloud become less as **0.25-0.30g/m³**. This is about **10%** of saturation density. Therefore **CCN inputting could make cloud for ordinal case.**

example calculation)

cloud volume $V = 10\text{km} \times 10\text{km} \times 1\text{km}$

water mas $M = V \times \text{LWC} = 3 \times 10^{10}\text{g} = \mathbf{30000\ ton}$

(4) 雲の寿命は数日から一週間程度？。

A sample calculation of estimating size of engineering scale.

(1) **Power of spray turbine $W = 100\text{KW}$.**

Energy is wind and sea wave powers.

(2) **Work for lifting water mass = m with height = h (10m) at spraying nozzle.**

$W = mgh$ 。 → $m = W/gh = 1020\text{Kg/s}$

(3)→**water mass M for cloud generation** = $V \times LWC = 3 \times 10^{10} \text{g} = 30000 \text{ ton}$

Now we apply 10 times gain strategy \equiv 10TGP.

Time for $0.1 \times 30000 \text{ ton}$ spraying = $3000 \text{ ton} / 1020 \text{Kg/s} = 2940 \text{s} = 0.8 \text{hours}$.

Cloud area by 1week spraying = $30 \times 7 \times 10 \text{km} \times 10 \text{km} \times 1 \text{km} = 21000 (\text{Km})^2 \times 1 \text{km}$

(4) **80° Arctic areas** = $3.9 \times 10^{12} \text{m}^2$.

(5) number of spraying unit = $3.9 \times 10^{12} \text{m}^2 / 21000 (\text{Km})^2 = 190$.

(6) unit cost = 200000\$, total cost = 40 m\$.

一機 2000 万円? で必要サイト数=200 台だと総額 40 億円 = 地球の救済費用額!!!

2桁間違っても 4000 億円!、3桁間違っても 4兆円です!!!。

II : 厳寒冬季に氷層上に海水汲み上げ散布で氷層厚みを図る。確実な方法だが規模が難点。

Arctic geoengineering//Building thicker sea ice[edit]

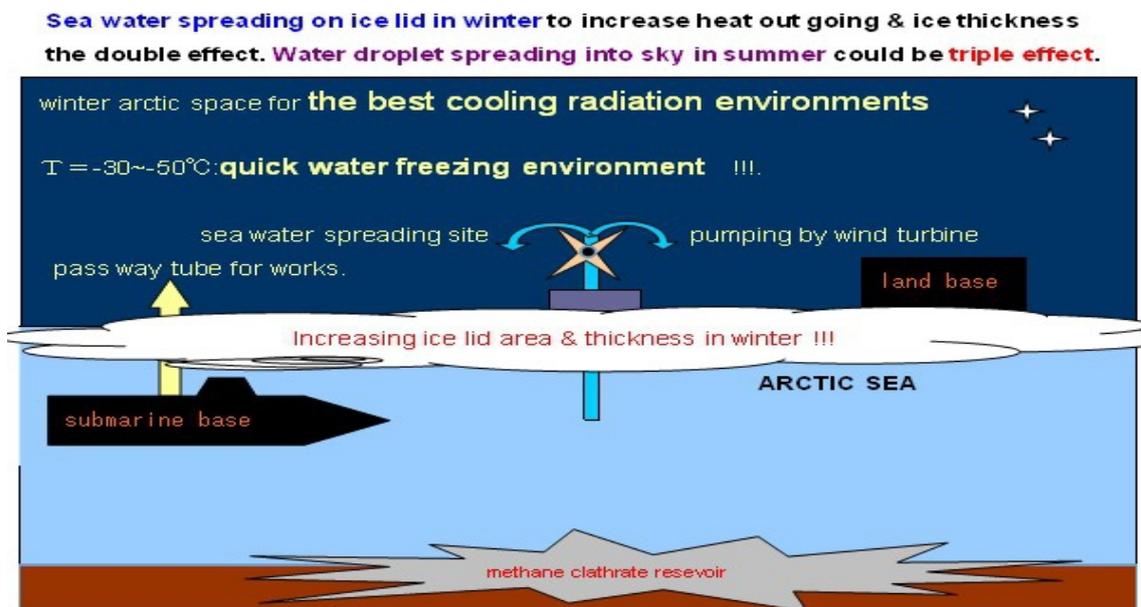
http://en.wikipedia.org/wiki/Arctic_geoengineering

9) Watts, Robert G. (1997). "Cryospheric processes" (Digitized online by Googlebooks). *Engineering Response to Global Climate Change: Planning a Research and Development Agenda*. CRC Press. p. 419. ISBN 978-1-56670-234-8. Retrieved 2009-01-02.

10) **Jump up**^ "Duct Tape Methods to Save the Earth: Re-Ice the Arctic". Popular Science. Retrieved 4 March 2009.

Jump up^ S. Zhou and P. C. Flynn (2005). "Geoengineering Downwelling Ocean Currents: A Cost Assessment". *Climatic Change* **71** (1-2): 203–220.

doi:10.1007/s10584-005-5933-0.



(4) How much can we make ice(discharge heat)by sea water spreading in winter-

(a) Recent years trend of Arctic ice volume decline $\doteq 1000\text{Km}^3/\text{year}$

Arctic Sea Ice Volume Anomaly(PIOMAS)

<http://psc.apl.washington.edu/wordpress/research/projects/arctic-sea-ice-volume-anomaly/>

Now we must emergently compensate year's loss of $V \doteq 1000\text{Km}^3/\text{year}$.

If we fail, decline trend become more and more toward increasing difficulty of the operation.

(b) mass of Arctic ice with sea ice mass density = $917\text{Kg}/\text{m}^3$,

$$M = 1000\text{Km}^3 \times 917\text{Kg}/\text{m}^3 = 9.2 \times 10^{14}\text{Kg} = 9.2 \times 10^{11}\text{ton}..$$

(c) m = total mass by water pump: $100\text{ton}/60\text{sec} \times (3600 \times 24 \times 120 <\text{winter days}>)$

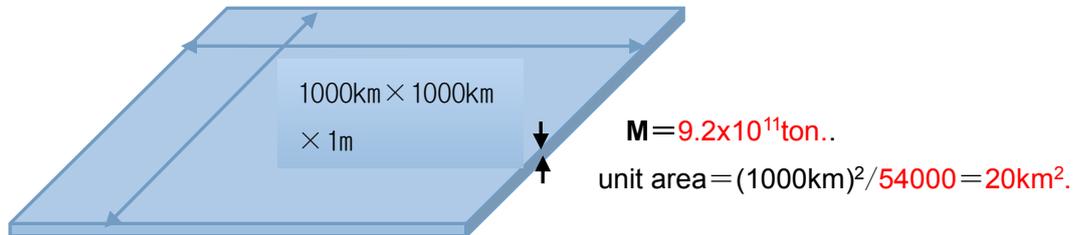
$$= 1.7 \times 10^7\text{ton}$$

* pumping power = $Mgh/T = 100,000\text{kg} \times 9.8\text{m}/\text{s}^2 \times 10\text{m}/60\text{s} = 160\text{KW} (?2014/6/12 \text{ revised}).$

(d) $N(\text{cooler units \#}) = M/m = 9.2 \times 10^{11} \text{t} / 1.7 \times 10^7 \text{t} = 54,000$. $N = 54,000$.

"N" is outrageous scale, however none could tell it impossible.

If unit cost of the implementation is 50000\$? , the coarse estimated total cost is about 2.7T\$.

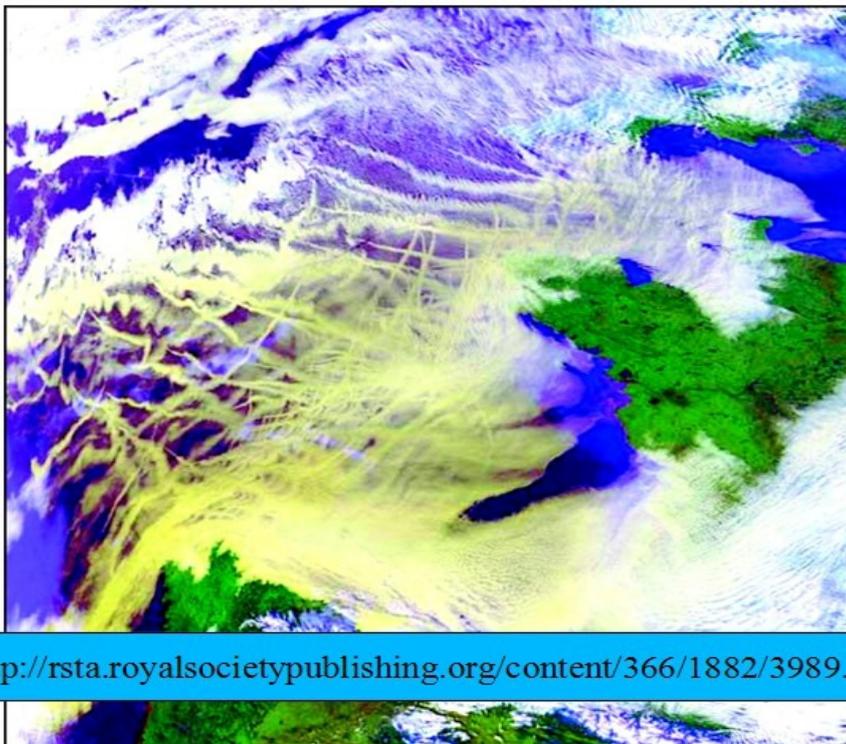


(e) Dissipated Heat amount in freezing sea water (this is very little).

*補足：雲工学の発端??

経験として海洋上の船の煙が大規模な雲を誘発する事が知られてるらしい。下では衛星からもそれが見えるらしい。雲工学は風任せ不安定性は否定しがたいが、安価にできる利点(大量設置可能性)は欠点を圧倒克服できる意味を特に考慮願いたいです。

Demonstration of the Twomey effect.



Salter S et al. Phil. Trans. R. Soc. A 2008;366:3989-4006